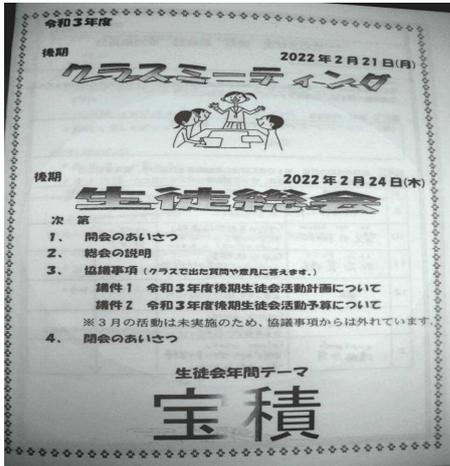


# 恕の心



令和4年3月1日 校長 廣瀬 真樹

## 生徒総会

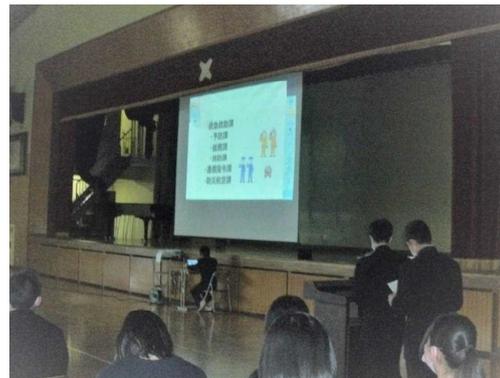


先週の木曜日、生徒総会が開催されました。昨年に引き続き放送による生徒総会になりましたが、事前に議案書を配り、たくさんの質問、意見がありました。生徒会活動が身近なものとして感じるよい機会となりました。特に委員会活動は日々の活動にプラスして独自行事も記載されていましたが、本当に適切に行われているのかをしっかりと

検証することは、会員である皆さんの役目だと思います。3月まで後期の活動は続きます。3月の活動は今回協議事項からは外れていますが、最後までしっかりと活動し、来年度にバトンタッチをしてほしいと思います。

## 職業人に学ぶ会 発表会

2月に行われた1年生の「職業人に学ぶ会」のまとめの発表が体育館で行われました。プレゼンテーションを使っただけの発表でしたが、職業人の方から教わったことは、その職業の内容だけでなく、職への思いや心構えであることが分かりました。



こういう風に発表する機会は普段の授業の中にもよく出てきますが、大切なのは「伝える」と「伝わる」は似ているようで大きく違うということです。「伝わる」ためには声の大きさや間の取り方、プレゼンテーションの内容等、相手のことを発表側が意識しなければいけません。またなにより聴く側の態度や心構えがとても大切です。今回学んだことを今後ぜひ生かしてほしいです。

## 「自分の姿は自分では見えない」

「自分のことは自分が一番よくわかっている」……そんな言葉をよく聞きますが、本当にそうでしょうか？

そもそも、目が顔についている以上、自分の顔を自分の目で直接見ることはできない。実は自分の行動や、目に見えること、表に現れるものについては、他人の方が自分のことをよくわかってたりするものです。自分自身を成長させたい時、自分自身を変化させたい時、まずは自分自身の現状を正しく理解する必要があります。そのための第一歩として

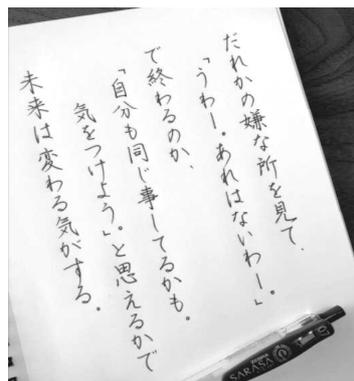
「自分のことは自分が一番わかってない」という意識を自分の中に持っておくことは結構大切だと思います。

他人の欠点や、行動の誤りなどは、とにかく目につきやすく、気になりやすいもの。それを指摘して改めるように求めたくなります。でも、いざ自分の欠点や、やり方の誤りについては気がつかず、それを修正することはなかなか難しいものです。そこで、他人のことを自分の鏡として参考とし、他人をとがめるまえに、自分を磨くことに利用しようという教えがあります。

### 「人の振り見て我が振り直せ」

他人の行動を見て、良いところは見習い、悪いところは自分の振る舞いを反省し、直すべきところは改めよという教えです。

先日、月例集会で「稚心を去れ」というお話をさせていただきました。あと一ヶ月後には卒業生は新たなステージへ、そして在校生は進級し、先輩、最上級生となります。「普段」の学校生活を大切に、友達から学ぼうという姿勢の人は、次のステップに向けて成長している、稚心を去ろうとしている人です。他人の良いところは大いに見習い、悪いところは自分の普段の行動に生かす。そんな姿勢で日々過ごしていきたいものです。



### 校長コラム

#### すぐに言わない②

言いたいこと 伝えたいことがあっても  
すぐに言わないこと

伝えたいタイミングと 受け入れられるタイミングは  
異なることが多い

焦って伝えても かえって伝わらない

相手の様子を しっかりと目と心で見  
話を聞いてから 伝えること

自分の思いは、ただ言えば伝わるものではありません。相手のことを考えた伝え方が大切なのだと思います。